

## 平成26年度学校運営の課題と今後の方向性

項 目	課題提起	課 題	課題解決に向けた方向性と主担当	
教育目標	学校教育目標 教育課程検討委員会	○「目指す人間像」は知・徳・体の3つを柱として、「学力」について分かりやすく記述されると良い。	○目指す人間像の一つめに「学ぶ」ことを明示する →管理職	
	学部教育目標 教育課程検討委員会	○学校教育目標と各学部の目標が必ずしも対応していないものがある。 ○小学部、中学部、高等部の目標が生活年齢に即して段階を踏んだものとなっていない。	○「目指す人間像」を踏まえた学部目標とする。 →各学部  ○それぞれの学部段階においてどう具現化するか調整する。 →学部主事	
	今年度重点目標	各学部	○表現力を育むことは今後も継続することが必要。 ○表現力を育むことは今後も継続して取り組む。 →各学部	
教育課程	類型編成・実施 中学部 教務部	○全校的な共通理解が不足している。	○教育課程についての研修を実施 →教育課程検討委員会、研究部 ○生活年齢や発達段階に合わせて必要な指導内容を「どのように編成し指導することがより効果的なのか」を十分吟味する。 →各学部	
教育計画・個別の指導計画	作成・実践 小学部	○個別の指導計画の作成(記入内容理解) ○個別の指導計画の作成(記入)	○共通理解を図り深める。 →教務部  ○達成目標と評価規準を明確にしておく。 →各学部	
	キャリア教育の推進・進路指導 小学部 高等部 総合支援部	○キャリア発達を促す指導	○キャリア教育全体計画の再確認と共通理解。 →総合支援部	
	評価 教務部	○評価規準の作成が行われていない。	○評価規準の作成。 →各学部、教科担当	
指導内容・方法	指導体制	小学部 中学部	○他学部との連携	○生活年齢や実態等を踏まえた、効果的な学習集団。 →各学部
		高等部	○補欠等調整。	○学部間の連携・協力体制も見据える。 →教務部、各学部
	校外学習 小学部 中学部	○予算	○年度当初に校外学習予算を明示し各学部に振り分け。 →教務部、事務部	
	読書活動 各学部	○ねらいや内容のより一層の充実	○内容の検討 →生徒指導部	
	外部講師活用 各学部	○ねらいと授業の位置づけ	○教育効果という視点からの再確認。 →各学部、教務部	
研究・研修	授業力向上 各学部 研究部	○研究授業	○日常的な授業交流・参観の実施 →研究部、各学部	
	情報機器研修 教務部	○研修の実施	○研修会を企画・実施する。 →教務部、研究部	
連携協力	P T A活動 教育課程検討委員会	○活性化	○会員同士の交流の場を設定。 →P T A担当	
	病院 小学部 中学部	○必要十分な関係	○個別の対応は直接病棟と確認する。 →各学部	

	センター的機能	総合支援部 高等部	○管理職や学部との連携。	○校内への情報発信。 →総合支援部
	交流及び共同学習	各学部 教務部	○交流及び共同学習の継続・充実	○ICTの活用など、継続的な交流の在り方を模索。 →各学部
進路相談	情報収集	総合支援部 高等部	○情報収集と情報活用。	○校外との連携・情報共有の促進。 →総合支援部
	保護者への情報発信の充実	中学部 高等部	○進路指導だより等の内容をさらに充実	○卒業生やその保護者に進路指導だよりに寄稿してもらう。 →総合支援部
外部講師の活用	地域資源活用	各学部 教務部	○地域資源についての情報収集	○目的に応じた情報収集と情報共有。 →各学部
	校内人的リソース	総合支援部	○とりまとめと活用	○とりまとめ →総合支援部 ○活用 →研究部、その他の分掌
予算有効活用	使途	各学部	○執行状況の共通理解	○希望集約、執行状況周知 →教務部、事務部
	予算を踏まえた学習活動の計画	教務部	○予算配分	○予算配分を早い時期に提示 →教務部、事務部
	支援機器・教材教具	教務部	○積極的な活用。 ○長期的な視点の計画的な整備。	○詳しい人の協力も得て、整備や研修を実施。 →教務部
	教材教具	各学部 分掌	○購入	○全校的見地に立った購入物品選定。 →教務部、事務部
	教材管理	教務部	○用途別等による整理と日常の管理	○日常の整理整頓を徹底。 →教務部、全職員
校務支援システム	教務部	○活用	○校務軽減につながる活用方法を検討 →教務部	
危機管理体制		学校安全委員会	○マニュアルを含めた体制整備と意識の向上	○マニュアル整備 →学校安全委員会
		保健体育部	○実情に即した避難訓練の計画的な実施	○意識の向上 →保健体育部 ○避難訓練の計画・実施 →保健体育部

## 平成26年度 学校評価アンケートの結果について

- 1 回収状況
  - ・職員アンケート100%      ・保護者アンケート70%      ・児童生徒アンケート65%
- 2 集計方法
  - ・4段階の評価について、Aを4点、Bを3点、Cを2点、Dを1点として平均を算出。
- 3 概要
  - (1) 職員アンケートについて
    - ・評価全体の平均が昨年度に比べ上昇(3.09→3.18)
    - ・昨年度と比較し0.2以上の低下が1項目(14)、0.2以上の上昇が11項目
    - ・評価が3.00以下は4項目、3.50以上が1項目(10)
  - (2) 保護者アンケートについて
    - ・概ね高い評価を得て、また平均も昨年度に比べ上昇(3.72→3.81)
    - ・昨年度と比較し0.2以上の低下が0項目、0.2以上の上昇が4項目
    - ・評価は全て3.50以上
  - (3) 児童生徒アンケートについて
    - ・概ね高い評価を得て、また平均も昨年度に比べ上昇(3.23→3.55)
    - ・昨年度と比較し低下した評価は0項目、0.2以上の上昇が7項目
    - ・評価が3.00以下は0項目、3.50以上は10項目

検討項目	分析と改善の方向性	担当部署
教育課程編成	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師を活用した授業は各教科等に位置づけ、学習をより深化・拡充させる活動として年間指導計画へ反映。</li> <li>教育課程の類型分けについて十分に共通理解されていない。各児童生徒の教育課程は実態に応じて基本の教育課程より調整して編成を行うことを共通理解していく。</li> <li>知的教科の目標や内容、準ずる教育の観点別学習状況評価等について学習指導要領等に則りより適切に実施。</li> </ul>	教務部 各教科 教育課程検討委員会
P T A活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の状況を踏まえ、活動内容の再検討を行い、数少ない来校機会をうまく活用したP T A活動の工夫が必要である。</li> </ul>	P T A担当
予算の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>予算をより有効に活用できるよう使途を精査し、執行状況も定期的に職員間で共通理解できるようにしていく必要がある。</li> <li>限られた予算で最大限の教育的な効果が得られるよう校外学習その他の学習活動の内容を工夫する必要がある。</li> </ul>	教務部 事務部
地域資源の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の方々や施設等を活用した授業に取り組み、児童生徒の学習や経験の拡充を図ることができた。今後も各学部を中心として、児童生徒に応じた活動が実施できるよう計画し、また地域資源の開拓を進めていく必要がある。</li> </ul>	教務部 総合支援部 各教科 学部
相談・支援体制への協力体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>専任／兼任コーディネーターの活動について他の職員への情報提供が不十分で理解されていない。地域の特別支援教育のセンター校として、相談支援のノウハウを全職員のものとなるよう校内研修等の活用を進める必要がある。</li> </ul>	総合支援部 研究部
危機管理体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症対策や地震や火災等の危機管理体制について手順の共通理解が不十分であった。そのためマニュアルを見直し、また防災用品等の整備を推進し、避難訓練等をより実践に即したものとなるよう整理した。今後は訓練等も通じながら防災意識の向上と共通理解を進める必要がある。</li> </ul>	保健体育部 学校安全委員会
支援機器の活用、教材教具の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>購入する必要性を目的や使用頻度等より吟味し、全校的かつ長期的な視野から購入品の選定を進める必要がある。</li> <li>現在どのような教材教具（支援機器）があり、どのように使用できるかの校内研修等を推進し、より有効活用していく。</li> </ul>	教務部 事務部 研究部
教材教具の整理・管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材教具を機能・種類別に整理している。今後も各教室等にある教材の整理を進めるとともに、管理が適切に行われるようにしていく必要がある。</li> </ul>	教務部
研究・研修について	<ul style="list-style-type: none"> <li>時期を明確にし、また参観しやすい体制を調整するなどし、研究授業を実施していく。</li> <li>研究図書が有効活用されるよう会議室等の図書の整理していく。</li> </ul>	研究部
授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の分かりやすさについて概ね良い評価であるが、一方で改善が必要との評価もあり、今後も継続的に改善が必要である。</li> <li>授業力向上に向けて研究授業の実施や互いの授業参観などを推進する必要がある。</li> </ul>	研究部 教務部
進路指導・情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導において職員、保護者とも学部による差がある。キャリア教育の全体計画も作成したが、各学部の系統性も十分とはいえない。児童生徒の生涯を見通し、長期的視野より各学部段階での進路指導等を見直す必要がある。</li> <li>学校での取り組みや情報について、保護者へ十分に伝わっておらず、積極的に周知していく必要がある。</li> </ul>	総合支援部 各学部
学校評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員一人一人が学校評価の目的を理解し、学校運営がより良くなるよう考えて建設的な意見の記述をすることが必要。</li> <li>学校全体の改善・充実に資するという学校評価のねらいに照らし合わせて、担当する部署について今後検討が必要。</li> </ul>	教育課程検討委員会 管理職
読書活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度より評価が大きく上がった。</li> <li>今後は目標や内容について今年度の反省を生かし、より充実できるような計画の立案が必要である。</li> </ul>	生徒指導部 各学部